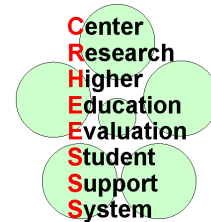


# 週刊センターニュース No.315

第315号(2010年7月5日) 毎週月曜日発行  
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター  
URL: <http://www.rche-kanazawa-u.jp/>



## 〇●〇 第1回カリキュラム研究会開催のご案内 〇●〇

主催: 大学教育開発・支援センター

日時: 7月14日(水) 16時30分～18時

場所: 総合教育1号館2階大会議室

テーマ: 「共通教育特設プログラムにおける環境・ESD科目のパッケージ化について」

発表者: 西山宣昭(大学教育開発・支援センター) 他

趣旨: 第2期中期計画[3-1]および[4-3]の22年度計画に環境・ESD(持続可能な開発のための教育)に関わる既存の共通教育科目群の体系化を図るとともに、新規科目の開発も行うことが掲げられている。これらの計画はカリキュラム検討委員会および共通教育委員会下のWGでその実現に向けて作業が進められている。この研究会では、上記WGでまとめられた科目のパッケージ案について授業担当者にお集まりいただき、意見交換を行うとともに、パッケージ内の科目間の関係性と体系化のポリシー、パッケージ全体の教育目標、新規科目開発の可能性について公開で議論する。当センターで調査した長崎大学環境科学部の文理融合型カリキュラムの概要についても紹介し、議論の材料としたい。公開で開催するため、授業担当者ばかりでなく多くの教員の議論への参加をお願いしたい。

## 〇●〇 長崎大学環境科学部における「環境学」の構築 〇●〇

本学の第2期中期計画には、教養教育、専門教育、大学院教育における環境教育カリキュラムを整備することが掲げられている。カリキュラム検討委員会との連携あるいは主導により、共通教育機構、各学類、大学院研究科において環境教育カリキュラムについて検討されつつある。当センターも参考となる他大学の事例について情報を収集するとともに、当センターのカリキュラム研究会により全学的な環境教育カリキュラムについての議論の場を継続的に設定する予定である。

大学院における環境教育・ESD(Education for Sustainable Development)の先進事例としては、東京大学を中心とした複数の大学が単位互換等により連携するサステナビリティ学連携研究機構の事例があり、当センターにおいて情報収集に着手している。一方、環境学を教育研究する国立大学最初の学部として平成9年10月に創立された長崎大学環境科学部の10年にわたるカリキュラム開発に注目し情報を収集している。文理融合に基づく「環境学」の模索の過程は、本学の共通教育、副専攻における環境教育カリキュラムの検討において参考になると思われる。

長崎大学環境科学部は、工学部、水産学部の教員と旧教養部の文系の学問分野を専門とする

教員によって組織され現在に至っている。この間、自然科学系の領域を中心とした「環境科学」から、環境問題の拡大深化とともに環境認識の深まりを背景として、社会科学領域さらには人文科学的領域をも包括する「環境学」という枠組みへの変更について、教員間での共通理解が形成されてきた。平成19年度の環境科学部FD報告書の巻頭言において、環境科学部長の佐々木正氏は、日本思想史を専門とすること自身の担当授業科目「環境思想史」を環境学の一領域としていかに位置付けるかについて苦労されたことを述べられている。同氏は、環境学の枠組みと内容として、以下の提言を述べられている。1. 環境の現在、過去の解明と未来環境の予測、2. 環境問題解決に向けての政策的対応の解明・提言、3. 環境問題の克服に寄与する技術等の開発、4. 生態学的危機を克服し、地球環境を保全し、永続する人間社会の形成の基盤となる思想文化の解明・提言。さらに、環境科学部の文系学問分野を専門とする教員は文化環境研究会、環境政策研究会を組織し、環境に関する諸問題への文系基礎学からの回路を開拓する試みがなされている。

環境科学部では、専門共通科目を1年次に履修する。専門共通科目の文系基礎分野では環境法、環境経済学、環境社会学、環境倫理学を、また理系基礎分野では基礎数学、基礎物理、基礎化学、基礎生物学、いわゆる理系基礎科目を履修する。さらに専門共通科目として、環境科学概論A、Bを履修する。これらの専門共通科目の内容については特色GP事業を起点として継続的な見直しが行われており、またこれまでに3度のカリキュラムの見直しが行われている。

平成19年9月に策定された環境科学部改革案では、教育目標をさらに明確化するとともに、それらを実現していく具体的道筋として、カリキュラムの改善、授業科目の精選および体験型フィールド教育の実施等を中心に文理融合の環境学教育体制の整備が必要であると述べられている。体験型フィールド教育を重視する方針に基づき、平成19年度より雲仙市との体験フィールド教育開発および研究面で連携する「雲仙Eキャンレッジプログラム」が進められている。

本学においても能登半島地域における自然科学、医療保健、社会科学の各分野での研究プロジェクトが行われており、それらの成果の体験フィールド教育への還元が期待される。文理融合の環境教育、科目開発は容易ではないが、環境教育についての教員の共通理解の形成をまず目指すべきであろう。7月14日(水)に環境関連の共通教育科目のパッケージについて当センターのカリキュラム研究会で議論を行う。多くの教員の皆様のご参加をお願いしたい。

(文責 大学教育研究開発部門 西山宣昭)

## ●●● お知らせ ●●●

開催につき全学に広報され、6月22日(火)に角間キャンパス総合教育1号館2階大会議室にて開催されました、外国語教育研究センター2010年度第2回FD研究会にて、当センターの教育支援システム研究部門の青野透教授が「学生中心の授業作りー授業参観とクリッカーー」と題して報告しました。参加者は外国語教育研究センター以外からの参加者4名を含めて十数名でした。報告パワーポイントデータは、クリッカーによる評価も含め、アカンサスポータル内のアカンサスFDに掲載しました。各部局におけるFD企画等の参考にしていただければと思います。

なお、当センターでは、このようなFD研究会等への講師派遣を含め、各部局のFD企画に協力致します。お気軽にご相談ください。